

## 第7回 心を育てる地域と世代部会

### 【摘録】



日時：平成25年5月28日(火)18:15~20:30

場所：宮前区役所4階第1会議室

【進行：大槻部会長】

#### 1 出席確認

出席委員：太田委員、大槻委員、岡委員、平井委員、田浪委員、豊島委員、直本委員、  
山下委員

欠席委員：佐藤委員、宮崎委員

#### 2 本日の議事内容の確認

別紙配布資料に基づき、部会審議終着点のイメージの共有、課題解決提案の具体的な実施内容の検討を行うことを確認

#### 3 具体的な提案の検討

意見交換→別紙のとおり意見集約

#### 4 今後のスケジュールについて

第8回 7月2日(火)18時15分~20時15分 区役所4階第3会議室

# テーマ：心を育てる地域・世代間交流

## 【総論】

世代交流、多様な人材の発掘、活動団体の交流と連携という課題・目指すべき方向性を改めて確認。体験・交流・対話の重要性を共通認識した上で具体的な取組について、いくつか案が出された。取組の詳細を今後検討していく。

## 【キーワード】

心の教育、世代交流、人材発掘、活動団体の交流・連携、体験・交流・対話、

## 課題の再認識

### ■多様な人材の発掘

- 地域教育会議など、地域で教育の場に関わっている人は限られ、ごく一部に留まっている。同じ顔ぶれ。(山下・豊島)
- 地域教育会議の子ども国会など子ども向けイベントも優等生のみが参加。同じ顔ぶれ。(平井・豊島)

### ■活動団体の交流と連携

- 既存の活動発表の場は、なかなか交流の場にまで発展していない。もったいない。(平井・田浪)

## 課題解決提案の方向性や手法

- 地域からもっと多様な人材を掘り起こすしくみ。(平井)
- 既存の活動団体をつなげていく視点。世代は異なるが互いに興味を持っている活動同士をつなぐ。(平井・田浪)
- バリアフリーの心を育てる。例えば障害者の面倒を見るのではなく、障害者と共に何かをする心。(太田)
- 他世代が顔見知りになる機会を増やす。(田浪)
- 求めているものは押し付けない。既存の活動に口を挟む様な形にならないように。(平井・太田)
- 地域の年配の方が自分の技術や知識を伝えたり、活かせる場をつくる。(直本)
- 世代間対話のプロセスを重視。共有体験から対話する流れや、興味を引くプログラムが重要だ。(田浪・直本・平井ほか)
- 先進事例を情報収集し、参考とする。例：第3期の坂道の提案における東京都目黒区の実践事例(山下)

## 既存取組の例（今回新たにあげられたもの）

- 國學院大學学生の奉仕会。若い世代による障がい者と共の活動は障がい者も喜ぶ。(太田)
- 東高根森林公園での市民活動。勉強会開催など積極的(太田)
- 子育てフェスタ実行委員会。会議中の預け保育をフレンド神木の高齢者たちに依頼を検討している。(田浪)

## 課題解決提案の形について

- 複数事例を示す。テーマ別に事例を整理する。支援方法も示したい。(直本・山下)
- あるべき姿とそこに至る方法論を示す。道筋を示す必要はあるが、主体まで区民会議である必要はない。(直本・事務局)

## 具体的な取組案

- 多摩区生田緑地で開催されている「自然体験の集い」の宮前区版。(平井)
- モデル地区での学習支援と世代交流。事例：菅生地区の塾先生の取組・サポート南野川など(岡・豊島)
- 風の泉の活動(九九学習支援)の支援。ニーズを関係者に伺う。(田浪)
- 子育てフェスタなど既存のイベントに世代交流をテーマとした企画や展示・コーナーを設ける。(田浪)
- 世代交流プログラムの開発。「課外授業 ようこそ先輩(NHK)」の宮前区版や対話ゲームなど。(大槻)
- 世代間対話の場の企画と記録の冊子化。市制90年(再来年)、100年に向けたアーカイブ事業と絡めて。(大槻)